

「teamLab Borderless デジタルの森探検」

2020年8月3日実施 JGA 第一支部研修 終了レポート

例年より遅めの梅雨明け、夏本番の2020年8月3日（月）東京お台場パレットタウンにて13:30から16:00まで「teamLab Borderless」研修が実施されました。

通常ならば夏休み、家族連れに人気のお台場のはずですが今回は少し違います。未曾有のコロナ渦、見えざる新型コロナウイルス感染の危機が近くまで迫っている。誰がこの事態を予測できたことでしょうか。そんな懸念の中での研修となりました。

チームラボボーダレスはコロナ対策にも大変気を遣っており、入口での消毒・検温と人数制限と、安心して参加できました。

会員34名、委員2名がコロナ対策のため5つのグループに分かれ、3密を避けつつ館内を巡りました。カタリストと呼ばれる講師が各グループに一人ずつ付き、イヤホンガイドを使用し、たっぷり2時間かけてご案内くださいました。少人数制だったため、気軽に質問でき、研修後復習をかねての再入場まで許され（通常は再入場できません！）皆、熱心に動線の確認をしていました。

館内は薄暗い上に地図はありません。ガイド泣かせではありますが迷うことさえ楽しんでほしい。各グループの講師からチームラボのコンセプト、各作品の詳細なご説明をいただきました。



基本コンセプトは「境目なく作品が常に動く」

「他人と一緒にいるから《こそ》できる体験を楽しむ」

例えば、展覧会などで自分の目の前に背の高い人がいて「見えない。この人邪魔」と他者の存在を不快に感じたことがあるでしょう。それが、ここでは違います。全く新しい美術館といえるでしょう。常に私たちの存在にデジタルの作品が反応し、動いているのです。入口近くのバタフライハウスで生まれた蝶たちが館内を飛び回っています。一瞬として同じ展示がなく、すべてが見どころのように思いました。かの有名な鳥獣戯画の動物たちも私の前を横切っていました。

新しい発見の連続に「今までとは違った案内ができそう。チームラボの作品の見方が変わった。」などと前向きな意見がたくさんあがりました。

実地で学ぶ楽しさを体感する研修となりました。お客様にご案内できる日が少しでも早くくることを願うばかりです。

